

Readers' square

「シスコ展」の
赤い鉄橋の絵

高谷和生⁶⁷

市民団体代表

(玉名市)

赤い鉄橋の絵が見たくて、熊本市現代美術館で開かれている「シスコ・パラダイス」展を訪れた。

会場では、本紙連載「塔本シスコ展 幸せメモリアルズ」でも紹介された、あふれる色の洪水「シスコ・ワールド」にのみ込まれた。

絵は宇城市松橋町での、何げない普段の生活を描いたものではあるが、なぜか私が生まれ育

った玉名の原風景にも通ずるもので、心が温かくなり、今の平和を感じ幸せな気持ちになった。

「ふんふんとの海」に描

かれている「赤い鉄橋」とは、昨年6月、私たちの団体が調査した松橋空襲の痕跡が残る戦争遺跡

「永代鉄橋」である。絵にはたくさんのシオマネキと、赤い鉄橋や蒸気機関車、網を上げる人物も描かれ、空襲前の穏やかな日常を切り取った平和な世界だった。

一方、調査では、空襲をリアルに描写した地元の夏目信弘さん作の絵に

も出合った。そこには、

松橋駅舎内で肉片が飛び散る惨劇、今も永代鉄橋左岸橋台の横に残る、大きくえぐられた爆弾の痕跡、ワシのように空を舞う爆撃機が描かれていた。これらの絵は、いまロシアによるウクライナ侵攻の戦争映像そのものであった。

ぐ活動を進めている立場

として、今回のウクライナ侵攻、特に核施設への攻撃には、大きな衝撃で無力感にさいなまれる。今、自分にできるウクライナ支援に取り組み、77年前の悲惨な戦争の姿を知る調査をさらに進め、語り継ぎたい。シスコの絵に描かれた幸せな日々が一日も早く戻ることを願ってやまない。

投稿される方へ

「読者ひろば」への投稿は400～600字。「主張・提言」に採用す

ることもあります。◇欄外に郵便番号、住所(建物名も)、氏名、年齢(小・中・高校生は学年も)、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿を熊本弁でつづる「熊本弁まっだし」も募集しています。日常生活の喜怒哀楽などを、すべて熊本弁で書きつづってもらうコーナーです。長さなどの規定は、一般の投稿に準じます。「熊本弁まっだし」の投稿は、熊本の新しいウェブサービス「熊日電子版」の「熊本弁の達人」コーナーで匿名で紹介することもあります。ご了承ください。

あて先は、▽郵送〒860-8506(住所不要) 熊日「読者ひろば」係 ▽ファクス(文章のみ) 096(363)1268 ▽メール hiroba@kumanichi.co.jp